

ひぜんだより

肥前精神医療センター総合情報誌

第15号

病棟建替工事

～今までとこれから



企画課長 佐藤 義実



病棟工事前の地盤調査



○ 2011年6月17日

入土穴は自然の地形



○ 2011年6月

病棟建替エリア工事初の交通安全祈願



1. 長～い工事

連日の暑さの中、病棟建替工事が順調に進んでいます。ご協力いただいている皆様にお礼申し上げます。工事業者もよく指示を守っていただいております。1期工事開始以来周辺にお住まいの方から1件の苦情もないことも地道な配慮の積み重ねを現していると思います。

手元に2011(H23)年6月号の「ひぜんだより」があります。3年前に発行された広報誌です。表紙にあじさいの花を飾ったこの号に見開き2ページを飾った「肥前リニューアル計画」が誇らしげに掲載されています。多くのスタッフの皆様の記憶に残っているのではないのでしょうか。

そこからさらに1年前、「昨年(平成21年)6月に新病棟建替整備の基本プランを本部へ提出していましたが、ようやく平成22年12月6日付で本部理事長の承認がおりました」という記事があります。今から5年前です。それまで溜めてきた病棟建替プランを機構本部に向けて発信した、ここが来年、平成27年10月まで続く「新病棟建替整備工事」のスタートラインです。

実際の工事は平成23年4月に総合汚水処理施設建設、院内保育所の新築移転などが病棟建替に先立つ準備工事として始まりました。

途中、新病棟の設計見直しに随分時間がかかったので一連の工事という認識はないかもしれませんが、それぞれの職種、立場のスタッフがホームページにある院長の「患者さんからも医療者からも選ばれる病院」という思いを実現するために熱心に検討を重ねた結果だったのだらうと思います。

ようやく本体部分の設計がまとまり、機構本部の承認を経て病棟建替本体工事の入札を行ったのが平成25年2月、昨年のことです。大型工事ですので、建築工事、電気設備、機械設備それぞれの入札でしたが、肝心の建築工事が不調、つまり契約に至りませんでした。4月末に再度入札を行いました。その日には決まらず、数日間の交渉後ようやく落札契約締結となり第1期工事として現在の南病棟エリアの工事が始まりました。

今年7月の時点で旧東1、2病棟エリアの取り壊しが完了し、一旦停止して遺跡調査の完了を待っているところです。この一旦停止は吉野ヶ里遺跡群の只中、この広い敷地の全てが「西ノ田遺跡埋蔵文化財包蔵地」の中という肥前精神医療センターの宿命です。どこを掘るにせよ教育委員会の埋蔵文化財発掘調査を受けなければなりません、万一土の中からお宝が出てくれば工事は当然延期になります。

2. ガラパゴス

こんな面白い名前的大型建設機械が旧東1、2病棟エリアの工事現場で活躍しています。ダーウィンの進化論とは直接関係ありません。取り壊した建物のコンクリートをリサイクルする機械の名前です。メーカーの説明によればコンクリートの廃材、つまりガラと次世代の建設方法として「進化」した意味を含めたとのこと。建物は大部分がコンクリートと鉄筋でできています。油圧ショベルに付けたカニの爪のよ



ガラパゴス

うなクラッシャーで大きな固まりまで噛み砕かれたコンクリートは巨大シュレッダーのようなガラバゴスの投入口に入れられ程良い大きさに砕かれた後、機械内部の磁石で鉄筋を選り分けコンクリートガラを砂利（砕石）としてリサイクルします。

建物の基礎工をするとき、むき出しの地面を整地するとき、大量のいわゆる砂利が必要です。今回の工事ではこの砂利を取り壊した病棟のコンクリートからその場で作り出しています。永く肥前入院患者とスタッフを見守ってきた古い建物が、今度は新しい建物の基礎や整地後の敷き石になって肥前の地にこれからも永くどまり続けるわけです。合理的なリサイクル方法、コストダウンの手法として建設業界のトレンドになりつつあるそうですが、それよりも何かしらロマンを感じてしまいます。

来年、残りの病棟の解体でも活躍する予定で、取り壊した建物から作られる砂利の全てをこの工事で再利用する計画です。

3. 肥前の進化

8月から始まるⅡ期工事ではすでに北病棟と命名された2階建て4個病棟がコの字型に配置された新病棟群と作業療法棟の新築が中心になります。建物そのものに革新的な要素が盛り込まれているわけではありません。北病棟は落ち着いたたたずまいのごく普通の2階建ての建物です。すでに完成した南エリア病棟群もそうですが、今回の病棟運営のコンセプトは「現状の問題点を改善し次世代に生かす」ことで「患者さんからも医療者からも選ばれる病院」を目指すことです。着実に積み重ねてきた実績が形になったもので奇をてらう部分は全くありません。

その内容は個室が大幅に増え、スペースは広く、植栽ができる病棟間の広い中庭に加え病棟中央部にも自然光をたくさん取り込むための中庭を配置しています。このコンセプトは南病棟群と同じです。物々しい雰囲気にならないよう窓の格子やフェンスが建物の色とデザインに馴染むよう考えられたものです。

急性期から安定期までのどの患者さんにも配慮した明確なゾーン分けと区画、転倒することが多い認知症の方などに配慮して床にクッション材を多用するなど肥前精神医療センターが目指す医療のための基本はしっかり踏まえた構造です。



4. 次のステージ

ところで、南、西、北病棟エリアがなぜ中央部の空き地を中心に区分けされているか？
院長が毎日、管理診療会議で宣言した「ここに外来管理棟を建て替えたい」という構想から生まれたものです。

現在、「新・肥前精神医療センター」の完成像が徐々に浮かび上がってきています。まだおぼろげではありますが、中心に外来管理棟、その近くにサービス、エネルギー棟、新病棟を囲むように教育・研修ゾーン、地域交流広場などの構想が徐々に質感を帯びはじめています。

再度ホームページにある院長の言葉を勝手にお借りすると「ひぜん」は、オールラウンドの先駆的・高度な精神科臨床だけではなく、創造的な臨床研究、全国に向けて情報発信を行う研修、精神科医療の将来を担う人材の育成をも行えるのが国随一の精神科医療施設を目指しています。」

職員ひとりひとりが同じ方向を目指せば、それほど先の姿ではないと思います。



Ⅱ期工事終了後（平成27年10月）



肥前セミナー すばらしい会に育ちました



昭和61年から始まった肥前セミナーは、医局の小さな勉強会として始まり、08の方々、地域に、多職種にと広がり、内外から、著名な演者を肥前にお招きしています。今回は、第100回から103回の肥前セミナーについて報告いたします。

第100回（平成26年3月5日 参加者数101名）

第100回の大きな節目を迎えて、記念すべく演者は、セミナー歴みの親、内村英幸名誉院長へお願いしました。セミナーの趣旨同様、精神医学と医療を様々な視点で見つめられ、臨床家として、研究者として、そして教育者として、これまでも、そして今後も様々な試みを実践されています。

多数の来客を想定し、医師養成研修センター大ホールを会場としました。内村先生の高名な実績とカリスマ性に寄ることはもちろんですが、吾輩を共にした旧職員（医師看護 コメディカル）の方々に多数参加して頂きましたことは、嬉しいかぎりです。さながら、肥前療養所同窓会でした。ご講演の内容は、先生の為されてきた多くの業績分野（内観療法・森田療法の臨床・分裂病の臨床・精神現象学・神経化学研究等）の中でも、クリニックで現在実践されている、森田療法とソマティック心理学との関係性を主体に話して頂きました。身体・心理・情動・魂を統合するような視点で語られるその内容は、高尚ながらも実践的な内容でした。

内村先生、ありがとうございます。御退官されて既に12年経ちますが、内村英幸先生は、いつも“新しい先生”であることを再認識しました。次機会のセミナーにもぜひ、お招きしたいと思います。（記：橋本喜次郎）



内村先生



第100回集合写真

第101回(平成26年4月18日 参加者数 115名)

第101回肥前セミナーは、「依存症者家族への効果的なアプローチ～CRAFTの概要とその実際」と題し、藍里病院(徳島県)の吉田精次先生をお招きし、1日目に講義、2日目にワークショップの形式で行いました。講義では、吉田先生の大変わかりやすいお話しと豊富な具体例により、書籍等で何となくのイメージしかなかったCRAFTプログラムの概要がきちんと整理できました。



吉田先生と吉森先生

2日目のワークショップは、CRAFTの中でも重視されている、「コミュニケーションスキルの改善」を中心に、実際に参加者同士がペアを組んで、家族が本人に言ってしまいがちな「禁句集」を肯定的な内容に言い換える練習が行われました。肯定的なコミュニケーションは、悪循環を繰り返してはいけないようになる、まさにトレーニング(CRAFTの”T”はTrainingです)なのだと実感しました。当日は、肥前をはじめ各機関の家族教室担当者が参加されていましたが、実際にプログラムを体験できたことで、依存症者の家族支援への有効性を確信されたのではないかと思います。(記:武藤岳夫)

第102回(平成26年5月30日 参加者数 67名)

第102回は、33年間の長きにわたり当院に勤務され、平成18年から沖縄の琉球病院院長である村上優先生にお話ししました。「肥前精神医療センター」に期待する「琉球8年目のメッセージ」というタイトルで、主に琉球病院に赴任されてからの、「改革」とも言えるような数々の成し遂げられたことについて話されました。医療観察法の立ち上げ、「重度かつ慢性」「治療抵抗性・難治性」精神疾患の治療としてクログピン使用(100例以上!)・m-ECT～地域連携体制として琉球版のACTの立ち上げ、こども心療科の立ち上げなどの臨床分野と、それだけでなく研究分野についても多くのことに取り組まれておられるということが、先生の語り口で、より力強く伝わりました。



村上先生と塚山先生

その中で、それらのことは、決して村上先生だけではなく、精神医療に携わる職員一人一人、またチームとして成し遂げていること。また、先生のその情熱は「肥前の運伝子」でもあるということをおっしゃっていただいたのではないかと思います。村上先生ありがとうございました。(記:小池桃子)

第103回(平成26年6月12日 参加者数 134名)

第103回肥前セミナーは、佐賀県における自閉症スペクトラム障害に対する教育、サポートシステムや、早期発見システムの構築に長年携わってこられた服巻智子先生に、就学前の診断評価についてご講演いただきました。会場には100人以上の参加者があり盛会でした。幼少時、特に2歳前において自閉症スペクトラム障害のお子さんによく観察される行動や注目点について話していただきました。重要な行動マーカーのひとつである、他者と興味を共有するための視線向けや相手の視線のチェックのやり取りであるジョイントアテンションを例にとり、1歳前後の健常児と母親とのやり取りや反応の様子と、自閉症スペクトラム児と母親とのやり取りの様子を、それぞれ実際の子供の映像を用いて、その違いをとても分かりやすく解説していただきました。(記:佐川陽子)



服巻先生

佐賀県・肥前精神医療センターの職員相互派遣研修

地域医療連携係長 岩崎 優子

2011年3月におこった東日本大震災後の地域医療における保健師の活躍がきっかけとなり、2014年4月から、佐賀県と肥前精神医療センターにおいて職員相互派遣研修が始まりました。

現在、肥前精神医療センターの看護師（保健師資格も有している）が佐賀県内の保健所に勤務しながら、行政的視点での地域医療を学んでいます。また、肥前精神医療センターでは、佐賀県の保健師が地域移行期にある患者さんへのケアの実際について学んでいます。



《肥前精神医療センター看護師の保健所における研修状況》

精神保健福祉の担当として、地域支援ネットワーク連絡会や、うつ・自殺予防対策事業としてグートキーパー養成講座、地域支援として担当地区の家族会などを担当し実施しています。また、精神保健福祉相談として精神科医師による面接相談の介助や、保健師による所内相談・電話相談、家庭訪問も随時行っています。

《佐賀県保健師の肥前精神医療センターにおける研修状況》

新入職者を迎えた時期に研修がスタートしたので、新採用者オリエンテーションに参加してもらい、肥前精神医療センターの概要について理解してもらいました。その後、肥前精神医療センターの外來患者さんに対して行っている訪問看護の実施、電話相談業務を実施しています。



この研修によって、お互いの役割や機能を今まで以上に理解することができると考えます。そのことによって、地域住民の皆様のニーズに沿ったケアの提供に繋がるように努めていきたいと思っています。

治験管理室へようこそ

治験管理室事務局

『治験』について、みなさんはどのようなイメージを持っていらっしゃいますか？「モルモット」「人体実験」「怖い・・・」などマイナスなイメージを真っ先に思い浮かべる方も多いかもしれませんね。確かにまだ薬として認められていない『薬の候補』となるものを動物や人に使用することになるので、そう思われるのも無理はありません。ただ、今薬としてみなさんが一度はのんだことのあるものも、同じように動物や人での試験を行って、薬として役立つと確認されたものです。たくさんの方の研究や協力を経てやっと薬ができていきます。



このように治験は研究としての側面があるので、病院に来る回数や検査が増えたり、薬の飲み方や生活の仕方に約束ごとが出来たりすることもあります。それに患者さんによっては効き目がないかもしれませんし、これまでに知らなかった副作用がでることもあるかもしれません。そのため、普通より詳しい診察や検査が行われて、病気の状態や検査の結果についてより詳しい説明が受けられます。治験に参加する人の人権や安全を守るために、厳しい法律（GCP）もあります。

これらの治験業務がスムーズに行われるように、当院に治験コーディネーター（CRC: Clinical Research Coordinator）が配置され9年目を迎えました。最初はCRC2名だった治験管理室も少しずつ人員が増え、今では治験主任薬剤師1名、副看護師長1名、看護師1名、非常勤事務職1名と計4名で治験業務を行っています。人数が増えると共に、治験の数もどんどん増え、統合失調症、双極性障害、アルツハイマー型認知症、自閉症、強迫性障害・・・など他にも様々な疾患に関する治験を行っています。

『薬の候補』となるものが薬として認められるまで、本当に多くの方が関わっていることを実感しています。治験にご参加くださる患者さんやご家族の方の「この治験薬が少しでも効いてくれたら・・・」という強い思いを感じると、良い薬が1日でも早く世の中に出ることを願わずにはいられません。

治験につきましては今後も強気に推進していくであろう国家戦略であり、いわゆる日本版NIHといわれてきた健康医療戦略推進法案、日本医療研究開発機構という新しい独立行政法人を作る法案が先般、国会で可決されました。当院もNHOの方針のもとで後退は許されない方向で舵を取り続けていくことと思います。多くの被験者の方に参加して頂き、医師、看護師、職員の方々と同じ方向を向いて質の高い治験を続けられるよう今後ともご協力をよろしくお願ひしたいとの強い気持ちで今回投稿させて頂きました。

平成27年度 採用看護職員 就職説明会に 参加しました

副看護部長 高木 範子

今年度も九州グループ主催就職説明会が九州各県で行われ、当院は佐賀会場と福岡会場に参加しました。

ユニフォームは、他施設は全員お揃いのTシャツや法被ですが、自分らしさや個性を大事にする肥前らしさが出るようにと、今年は各担当者の好きな色のポロシャツにしました(写真1)。病院紹介のDVDは、院内認定看護師の江田さんに作成していただき、「精神科を選んだ理由」「肥前を選んだ理由」「肥前のいいところ」など各病棟の看護師にインタビューする場面、今年度発刊した「看護のあしあと」(写真2)、現任教育や院内認定看護師のことなどをDVDに盛り込みました。そして梶原副看護師長が大勢の学生の前に立ち、緊張しながらもこやかにプレゼンテーションしました(写真3)。佐賀会場はホームグラウンドですので、多くの学生が肥前のブースに来てくれました。アウェイの福岡会場は集客が難しかったのですが、給与係の勝田さんが日ごろ(ナンパで?)鍛えた巧みな話術で学生を呼び込んできてくれました。1年目看護師の中村さんと原さんも就職して2ヶ月ですが、肥前の良さをよく理解し一生懸命アピールしていました(写真4・5)。その成果でしょうか就職説明会に参加した学生がもっと肥前のことを知りたいと、病院見学やインターンシップに多数来てくれます。

27年度は多数採用する予定です。来年はHIS導入、北病棟新築と大イベントが待っていますので、より多くの方が就職希望してくださることを願っています。

表1

会 場	全体来場者数	肥前ブース来場者数
5月31日佐賀県	95名	36名
6月7日福岡県	301名	19名



写真1: 佐賀会場の肥前ブースで担当者の記念撮影



写真2: 看護のあしあと



写真3: 福岡会場 プレゼンテーションの様子



写真4: 佐賀会場でのブース説明の様子



写真5: 福岡会場でのブース説明の様子

今年4月に赴任された外来診療部長に聞きました！

Q1. 出身地とプロフィールをお願いします。

長崎県長崎市。

H16～H19 当院で勤務し、H19～本年3月まで国立小倉医療センター
精神科勤務。

Q2. 肥前に戻って来られての印象は？

以前にも増して、専門性が高く、地域住民や周囲の精神科病院に
頼られる存在であり、若い先生が研修を希望して集まる活気のある病院。

Q3. 趣味・特技やプライベートでの関心事は何でしょう？

音楽鑑賞（クラシック全般）ですが、最近はオペラに比重が移りつつあります。

その他ラーメン食べ歩き、スポクラ通い、サッカー観戦など。

Q4. 好きな言葉やモットーなどは？

賢者は損得を乗り越える。

Q5. これからの抱負をお願いします。

高い専門性を維持しながら、若い先生が今以上に研修を希望するような病院であり続けられるように支援
できればと考えています。



村川 亮（むらかわ りょう）



肥前精神医療センター

新任紹介

1. 職名 2. 出身地 3. 趣味・特技 4. 好きな言葉 もしくはモットーなど
5. 肥前でやりたいこと・実現したいこと



久我 政利（くが まさとし）

1. 精神科医師
2. 熊本県
3. 特になし
4. 先妻後楽
5. 患者様の病状回復に向けて、少しでもお手伝いできたらと思います。



藤内 温美（とうない あつみ）

1. 精神科医師
2. 福岡
3. 体を動かすこと、旅行
4. やらないで後悔するよりやって後悔
5. 患者さんが元気になれるよう、多職種のみなさんと協力して楽しく働いていきたいと思いません。



大坪 建（おおつぼ たける）

1. 精神科医師
2. 長崎県長崎市
3. 趣味：旅行（Attack the castle!）、特技：汗をかくこと
4. 最近では地道に丁寧な臨床を継続することを心がけるようにしています。
5. レジデントだった頃活動していた「城部」の再興。



大坪 万里沙 (おおつぼ まりさ)

1. 精神科医師
2. 福岡
3. DVD鑑賞、旅行
4. 一期一会
5. 肥前は専門的で大きな病院なので、経験を重ねて、患者さんにより良い支援ができるようになりたいと考えています。



葛原 康介 (くずはら こうすけ)

1. 事務部長 2. 熊本県(福岡市在住)
3. ドライブ(主に妻との異い出し) 野球観戦(もちろんソフトバンクホークスの応援) ベランダの花木に水やり(ベランダ裏のお仕事)
4. 好きな言葉「為せば成る、為さねば成らぬ何事も」人生訓「天網恢恢疎にして漏らさず」モットー「まず、やってみる」
5. 「外卒様等建替」(職員一丸となって夢に向かって頑張ります。)



白石 順一 (しらいし じゅんいち)

1. 管理課長
2. 宮崎市(佐賀出身ですか?とよく言われます。)
3. 山歩き・皇山散策・山野草鑑賞
4. 覚悟
5. 職員の皆さんと供に頑張ること。



相島 正子 (あいしま まさこ)

1. 業務班長
2. 佐賀県唐津市厳木町
3. 野球観戦
4. 前へ、前へ。
5. 病棟建て替えの第Ⅱ期工事がより良い建物となるよう、職員の皆様と協力し滞りなく建設出来るように取り組みたい。



山口 剛志 (やまぐち つよし)

1. 医事専門職
2. 福岡県
5. 訳あって20余年勤務した近畿より転任いたしました。元は九州人ですが、時々登る関西弁も出します。よろしくお願ひ申し上げます。



村口 武 (むらぐち たけし)

1. 入院係長 2. 福岡県
3. 自宅のあちこちに植えて怒られる園芸(クリスマスローズ栽培等)と、自動車メンテ(通勤車は21歳、29万キロオーバー、もう1台は年間数万キロ、維持費で怒られています)
4. 情になし
5. 精神科の病院は初めてですが、出来ることから少しずつでも前に進みたいと思います。



岩下 達朗 (いわした たつろう)

1. 算定・病歴係長
2. 福岡県益力市
3. ドライブ
4. 開放的



前田 博文 (まえだ ひろふみ)

1. 庶務係長
2. 福岡県
3. ドライブ(家族で走り回ってます。)ベランダ菜園(スイカ作りに失敗(T-T))
4. まずはやってみる。
5. 庶務係として円滑な業務が出来るよう心がけたい。



中原 佐代子 (なかはら さよこ)

1. 療育指導室長
2. 佐賀県唐津市
3. 映画鑑賞、Live鑑賞、フットワークの軽さ
4. 「しあわせは いつも じぶんのこころがきめる」
5. ・重症心身障害児(者)の皆さんへの充実した支援
・美味しい呑み屋さんを見つける



森田 伸二 (もりた しんじ)

1. 診療放射線技師長
2. 佐賀県
3. ゴルフ・テニス
4. なるようになる。
5. 精神科を知る。



吉丸 健一 (よしまる けんいち)

1. 栄養管理室長
2. 佐賀県
3. 居合いやってみました。
4. 香風殺人
5. 安全安心で、患者様に喜ばれる食事の提供を栄養管理室一同心掛けていきます。



高木 範子 (たかぎ のりこ)

1. 看護課部長
2. 鹿児島県志布志市志布志町志布志 (しぶしししぶしちようしぶし) きて、「し」がいくつあるでしょう?
3. テニス (アラフォーになって始めました・・・)
4. 「思い遣り」出身の看護学校の校訓です。「思い遣り」の対象は、患者・家族だけではなく、自分の周りにいる親、子供、上司、部下、同僚等々。また人だけでなく、ご近所や職場である病棟、病院、など自分を取り巻くあらゆる環境に対して持つものどと思っただけして接しているつもりです。
5. 「思い遣り」をもって行動することは、患者にとっては安全で安心な医療の提供につながり、職員にとってはよりよい人材育成や働きやすい職場環境の提供につながると思います。そしてその積み重ねが病院の活性化につながると信じていますので、「思い遣り」パワーで肥前精神医療センターが今より盛り上がりていくよう頑張ります!



松田 桂子 (まつだ けいこ)

1. 教育担当師長
2. 福岡県福岡市
3. 野球観戦
4. 迷うのだったら、まぎやってみよう!
5. 心のことを学びたいです。成長・発達の成り立ちと障害を受けるとはどのようなことなのか学びたいです。



樋口 善美 (ひぐち よしみ)

1. 南2病棟師長
2. 福岡県
3. スポーツ観戦
4. 道を切り開くのは自身と勇気
5. 再び児童・思春期病棟でお世話になるようになりました。病棟管理を行いながら、子供たち個々の特性にあった関わりができるようになりたい。



藤本 亮一 (ふじもと りょういち)

1. 西3病棟師長
2. 熊本
3. 趣味 ギター
特技 なし
4. 否定からは何も生まれない
5. どこへ行っても、プライマリー・ナーシングの推進と個別ケアの強化について働きかけたいです。



田尻 文子 (たじり あやこ)

1. 東3-1病棟師長
2. 佐賀県
3. ゆずの曲を聴くこと ライブで飛び跳ねる事がストレス発散です。
4. 笑顔と誠実 (笑、心)
5. 広い視野をもって相手を尊重すること
心かようチームワークを目標に、患者様に寄り添う看護を提供していきたいです。働くは、傍 (はた) を案にすることだそうですので、お互いに声かけ合いながら丁寧な仕事をしたいです。



名所案内：伊東玄朴旧宅



伊東玄朴いとうげんぱくは、1800年に現在の神崎市神崎町いひやま仁比山で農家の長男として生まれました。

11歳のとき不動院玄透げんとうげん法院について漢学を学び、17歳で自宅（伊東玄朴旧宅）にて漢方医を開きますが、新しい医術へあこがれ長崎の鳴滝塾でドイツ人医師シーボルトシーボルトに師事し、学識を飛躍的に向上させました。

25歳で江戸に出て、当時不治の病と言われたジフテリアを治したことことから蘭方医として名声を博しました。

日本に麻疹を導入した人であり、西洋医学所（現在の東京大学医学部）を開設した人で、佐賀藩主鍋島直正の御匙医や、後に徳川13代将軍家で初めて蘭方医として奥御医師にもなった人です。

明治4年に70歳で亡くなりますが、医学に捧げた功績は大きく、我が国における近代西洋医学の父と仰がれています。

旧宅内には玄朴自身が翻訳したオランダの書物「医療正始いりょうせいし」や江戸末期の医学書、師を務めた蘭学塾「倭先堂しやせんどう」のパネル写真などが展示してあります。

紅葉で有名な仁比山神社の参道沿いにあり、その参道沿いにある名所「九年庵」のすぐ手前がありますので、こちらにも足を運んでみてください。200年前の面影をそのまま残しています。

編集部



これぞ一枚!シャッターチャンス 井原山のオオキツネノカミソリ



井原山(標高983m・福岡と佐賀の県境にある脊振山地)の中腹に自然群生している「オオキツネノカミソリ」は、キツネノカミソリの変種で九州最大の群生地です。

ヒガンバナ科の多年草で高さ30cmから50cm。名前は細かい葉にちなんでつけられています。開花時期は7月下旬から8月上旬頃で、彼岸花と違って夏の暑い盛りに開花します。

表紙の写真も溪流添いの岩場に咲く「オオキツネノカミソリ」ですが、やはり自然の花は自然の中で見るのが一番で、花言葉のとおりまさに「妖艶」です。

山道を歩かないと見に行けません。360度見回しても「花花花」で、汗をかいたご褒美としても見る価値のある貴重な群生地です。

すぐ側には冷たい溪流があり、みなさん木陰で花見をしながらお弁当を食べてますよ。

編集部



当センター内に自生する「ネジバナ」

当センター内の敷地に雑草にも負けず、「ネジバナ」が沢山自生しています。小さな花なので気づいていない職員もいるかと思いますが、昔はよく見かけましたが、最近ではあまり見かけなくなりました。

ネジバナの花言葉は「思慕」。ラン科のネジバナ属に分類され、れっきとしたランの仲間です。別名は「モジズリ」で、百人一首でも有名な古今集にある河原左大臣の歌、「みちのくのしのぶもじずり 誰ゆえに 乱れむと思ふ 我ならなくに」とありますが、この歌を現代語にすると「陸奥の国で離れるしのぶもじずり」という乱れ模様の衣のように、乱れてしまう私の心は誰のせい?私のせいじゃありませんよ..?こんな感じでしょうか。この歌にその名が登場することから、思い惚ぶ恋ということで花言葉も「思慕」なのでしょうかね?

ネジバナの花は、その名のとおり、花茎の周囲をぐるっと螺旋階段が昇るように、ねじれながら咲いていきます。ねじれる植物には決まった方向がある場合が多いのですが、このネジバナにはそういうこだわりは全く無いようで、右巻き、左巻きどちらも見られます。中には途中で方向変換してしまう個性派もあったりで、見ていて飽きません。

編集部



外来診療部長の
村川 亮です

目次

- P.1-2 ・病棟建替工事～今までとこれから
- P.3-4 ・総務セミナー すばらしい会に育ちました
- P.5 ・佐賀県・肥前精神医療センターの職員相互派遣研修
- P.6 ・岩崎管理室へようこそ
- P.7 ・平成 27 年度採用看護職員就職説明会に参加しました
- P.8-10 ・新任紹介
- P.11 ・名所案内：伊東玄朴旧宅
- P.12 ・これぞ 1 枚！シャッターチャンス オオキツネノカミソリ
・当センター内に自生する「ネジバナ」

◆編集後記◆

秋の声を聞くとまた夏がやってきたら～と感じますが、暑さなどのような暑さを過ごされはるか？

さて当センターの広報委員会では総合情報誌「ひぜんびより」の発行について活動してきました。今年7月より、ホームページの開設前、「NHKびより」への投稿、糸架堂内セミナー、セミナーなど数回広報活動等、各種の情報発信を行うことになりましたので、これほど以上に「がんばらんと」 編集部

患者様の権利

- | | | |
|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 1.安全で、かつ平等な最善の医療を受ける権利 2.疾患の治療等に必要情報を得、また教育を受ける権利 3.治療法を自由に選択し、決定する権利 4.プライバシーが守られる権利 | | <ul style="list-style-type: none"> 5.常に人としての尊厳を守られる権利 6.医療上の苦情を申し立てる権利 7.継続して一貫した医療を受ける権利 8.QOLや生活背景に配慮された医療を受ける権利 |
|--|--|--|

平成 26 年 7 月 1 日発行

編集・発行：広報委員会 委員長：橋本(家) 副委員長：須藤、村川、藤原

委員：佐川、太田、宮下、久我(弘)、佐藤、白石、小野、山口、前田、高木、岩崎、山崎(節)、霧村、江田、田中、宮崎、宮下、天野、林、中飯、大庭

発行所：独立行政法人国立病院機構 肥前精神医療センター